

# 4. インターネットでは…

インターネット上では、感染者を特定する書き込みがあったり、感染者や関係者の実名や写真が拡散されたりするなどの事例が相次ぎました。

- ❗ SNSに「感染源の店」「コロナ患者が働いている」「コロナ患者が立ち寄った店」などの書き込み
- ❗ SNS上で、感染者が発生したスポーツ教室の参加者が通う学校名や写真、複数の感染者が発生したという内容が拡散
- ❗ 退院した患者に関して、SNS上で自殺したというデマが流布
- ❗ 市内で感染者が確認され、公表された情報から感染者とは全く関係のない人が感染者であるという誤った情報が拡散

新型コロナウイルス感染症対策分科会「偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ(第3回)」資料より

新型コロナウイルス感染症に起因する差別は、既存の差別問題と複合しても起きました。例えば、中国人に向けて憎悪をあおる悪質なツイート、殺害や排除を呼びかける投稿がありました。また、感染者を「外国人」「被差別部落出身者」とするデマ情報が投稿されたこともありました。

三重県内においても、ある飲食店に対して「従業員が感染している」などのデマがSNSで拡散され、経済的損失を受けた事例があります。

社会や個人の中にある差別意識や偏見が、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大によって顕在化したと考えられます。

